

Classical Music and
History of Japan

Vol. 1 - The Russians

クラシック音楽が結んだ日本とロシア、愛の Story

Mari Lee, Violin

Mikhail
The story of
Grigoriev

語り、奏でる。その「音」が物語を
呼び覚ます

ミハイル
グリゴリエフ
の
物語

ロシア人 “グリゴリエフ” と日本人 “綾”

—— 異国の地で気づいた互いの 「Identity」と「愛」との葛藤

「クラシック音楽と日本の歴史」

Violin & Piano Duo ~ 歴史 “Story”

2022

Tokyo

ムジカーザ

7.30 Sat

19:00 | 開演・18:30 | 開場

やなか音楽ホール

7.31 Sun

15:30 | 開演・15:00 | 開場

Osaka

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

8.3 Wed

19:00 | 開演・18:30 | 開場

Naoko Sonoda, Piano

Artistic Director | マリ・リー
Story | 榎原 小葉子 / マリ・リー / 園田 奈緒子
Plot | Alacrity Script | 神里 雄大
Research | 榎原 小葉子
Speech Coach | 葉月 のりこ
Produced and Presented by Alacrity

<https://alacrity.jp>

Alacrity 株式会社 東京都大田区西蒲田 8-24-1

Original Concert シリーズ

クラシック音楽と日本の歴史

Vol. 1 - The Russians



Courtesy of Paul Gregory

Classical Music と

Human Story から

日本の歴史が“みえてくる”

新たなグローバル文化の波

「大正モダン」

日本の歴史 / History of Japan (1920 ~ 1943)

100年前、一人のロシア人が大正から昭和初期の日本にもたらした、小さな“芸術”の芽。それは、やがて人々の暮らしの中で、鮮やかに花開いた — 本コンサートシリーズ「クラシック音楽と日本の歴史」Vol. 1 - The Russians 公演では、そんな歴史の小さな1ページを紹介する。

革命期のロシアで、日本陸軍のための通訳として活躍した若き将校ミハイル・グリゴリエフは、その任務の特殊性ゆえに国を追われ日本へと渡った。時は1920年。かつて学んだ「音楽」を生活の糧とし、懸命に毎日を生きた彼は、その音楽が縁で、日本人女性・荒川綾と出会い結ばれる。華やかな西洋文化があふれ始めた東京で不自由なく青春を謳歌し、初めて触れる西洋音楽に胸をときめかせていた綾との結婚は、グリゴリエフの人生を大きく動かすこととなった。裕福な実力者であった綾の父親の芸術への深い理解と支援を得て、グリゴリエフは、自らの文学への情熱と学問の喜びを隠すことなく深めた。さらに、綾の義兄で詩人の川路柳虹との出会いは、やがてグリゴリエフを東京の文化芸術人サークルの中心へと導いたのである。そのなかにあって、彼にとっての音楽は、やがて生活の糧から、故郷ロシアへの強い思いを癒す薬のような存在となったが、その活動は、日本人の生活に小さいながらも着実な足跡を残していった—たとえば、政治思想家丸山眞男が、少年時代に通った映画館「新宿武蔵野館」で、グリゴリエフ指揮による生オーケストラ演奏を親しんだのがきっかけで、生涯クラシック音楽を愛好するようになったように・・・

時代はやがて大きくうねり、穏やかだった二人の生活もまた一変する。日本社会に根ざしてきたグリゴリエフの心は、より故郷ロシアを追い求める一方、急激に進む国際化の波にのまれた綾は、生まれて初めて、日本人としての自分を深く意識せざるを得ない状況に直面する。すれ違いながらも、離れることができなかった彼らの“かすがい”は、西洋と東洋両方の文化を背負った二人の娘たちだったが、今にも崩れそうな夫婦の関係が、かろうじて娘たちに気取られることがなかったのは、グリゴリエフが娘たちとともに、音楽を日々の生活にあふれさせていたからかもしれない。

異国人同士の結婚はまだそれほど多くはなかった時代に、それでも“ごく普通の”夫婦として生きたロシア人青年と日本人女性。そんな二人の生活に寄り添い続けた「西洋クラシック音楽」と、日本のグローバル文化の発展に影響を与えた文化人たちの物語から、日本に西洋文化が取り入れられてきた歴史をたどる。

Historical research by Sayoko Sakakibara / 榊原 小葉子

「Programme」 休憩なし 75分

Clara Schumann: Andante molto from Three Romances for Violin and Piano, Op. 22

Pyotr Ilyich Tchaikovsky: Valse-Scherzo, Op. 34

Nobu Koda: 1st movement from Sonata for Violin and Piano No. 1 in E flat major

Dmitri Shostakovich: Four Preludes, Op. 34

Germaine Tailleferre: Adagietto from Sonata for Violin and Piano No. 2

Cesar Franck: 1st and 2nd movements from Sonata for Violin and Piano

Narration :

綾 / マリ・リー

グリゴリエフ / 藪田 奈緒子

| 一般前売 : 2022.6.22 (Wed) 10:00

全自由席

一般 : ¥4,800

学生 : ¥2,400

| Alacrity チケット受付

■ WEB : <https://alacrity.jp/>

■ TEL : 03-5408-9755

※ TEL からのご予約受付は 10 : 00-17 : 00

日・祝日お休み (販売開始日は営業)



| チケットぴあ

■ WEB : <https://t.pia.jp/>

■ Pコード : 220103



【会場】

2022. 7.30 (Sat) 19 : 00 開演 | 18 : 30 開場

ムジカーザ

東京・代々木上原

<https://musicasa.co.jp/>
〒151-0066 東京都渋谷区西原 3-33-8



2022. 7.31 (Sun) 15 : 30 開演 | 15 : 00 開場

やなか音楽ホール

東京・西目暮里

<http://yanaka-music.jp/index.html/>
〒110-0001 東京都台東区谷中 3 - 23 - 8



2022. 8.3 (Wed) 19 : 00 開演 | 18 : 30 開場

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

大阪・梅田

<https://phoenixhall.jp/>
〒503-0047 大阪府北区西天満 4-15-10



GLOBAL COLLABORATORS

Vol. 1 - The Russians 2022

歴史家

San Francisco

Historian, Researcher

榎原 小葉子



Sayoko Sakakibara

兵庫県神戸市生まれ。大阪外国語大学（現・大阪大学）言語社会研究科博士後期課程修了後、東京大学史料編纂所に日本学術振興会特別研究員として在籍。その後、スタンフォード大学大学院歴史学科博士後期課程修了。学術博士および歴史学博士(Ph.D in History)。現在、スタンフォード大学歴史学科にて、研究員ならびに講師として、日本前近代史の史料解析並びに授業を担当。専門は、江戸期から明治初期の日本宗教政治史・歴史地理学。現在、江戸時代に作成された瀬戸内海海路図の社会宗教的成立背景について執筆中。主要著書に、『太子信仰と天神信仰』（思文閣出版、2010年）、Cartographic Japan : A History in Maps (The University of Chicago Press, 2016)、Mapping Asia: Cartographic Encounters Between East and West (Springer, 2017)（いずれも共著）など。

History Humanities

て未来へとつなぐ
enger

脚本家

Tokyo

Script Writer

神里 雄大



Yudai Kamisato

1982年、ペルー共和国リマ市生まれ。2006年「しっぽをつかまれた欲望」（作：パブロ＝ピカソ）で利賀演出家コンクール最優秀演出家賞受賞。2018年「バルパライソの長い坂をくだる話」で第62回岸田國士戯曲賞受賞。各地を訪問し採集したエピソードを元に、移動し越境する人々をテーマにした作品を発表している。近年は文芸誌「新潮」に戯曲が掲載され、ソウル、香港、台北、ニューヨーク、ロンドンなどで翻訳戯曲が上演されるなど、その作家性に注目を集めている。『亡命球児』（「新潮」2013年6月号掲載）によって、小説家としてもデビュー。2016年10月より、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてアルゼンチン・ブエノスアイレスに1年間滞在した。南米各国の日系移民の子孫を取材してまとめたノンフィクションルポタージュ、『越えていく人—南米、日系の若者たちをたずねて』が亜紀書房より3月10日全国発売。

朗読家 / 朗読講師 / 読み聞かせ講師。一般社団法人日本朗読検定協会認定教室 プチブラージュ主宰。同協会企画部部長・エルダープロフェッサー・朗読検定上級検定員・読み聞かせ検定員。元日本航空株式会社客室乗務員。アイドルグループ「さくら学院」公開授業『朗読の授業』ステージ出演、J-WAVE 今市隆二氏(三代目) SOUL BROTHERS) SPARK) ラジオ出演、その他、朗読コンテストの審査員や、学校・企業で朗読講師を務める。朝日新聞東京本社 読者ホールにて『健康寿命を延ばす鍵は発声とコミュニケーションにあり！朗読活用法』セミナー講師。『第22回茨城県読書をすすめる県民のつどい』、奈良県大芸術祭・障害者大芸術祭『フォーラム・NARA』、赤間神宮『耳なし芳一琵琶供養祭』、『夏目漱石記念年・グランドフィナーレ』などの式典にも出演。企画・演出・脚本を手掛けた篠笛奏者 佐藤和哉氏との『かなでる × かたる』は平成29年度文化庁芸術祭参加公演。ほか舞台出演多数。*著書『CD 付き プロが教える 朗読上達トレーニング 心に届く表現力向上メソッド』*監修『CD 付き プロが教える 朗読 心に届く語りのコツ 50』（メイツ出版）*

語り、奏でる「音」。

それは、過去からの「メッセージ」

音楽家

Artistic Director, Violinist

New York ●

マリ・リー

Mari Lee は、国際的に活躍するバイオリニストであり起業家でもある。音楽への探究と聴衆を魅了するコンサートの在り方を追及する彼女は、聴衆、演奏者、作曲家の間のギャップを埋めることを目指すアーティストである。Mari Lee は、サウスバンクセンター、ウィグモアホール、ラジオ・フランス・フェスティバル、フィルハーモニー・ド・パリ、カーネギーホールなどで国際的に活躍するバイオリニストである。Strad Magazine から「非常に印象的」と評価される。ラビニア、ヴェルビエ、マルボロなどの有名なフェスティバルに招待され内田光子、今井信子、キム・カシュカシャン、マーティン・ヘルムヒェンらと共演する。学際的な芸術への強い関心を示す彼女は、付随演劇を取り入れたコンサートプロジェクト Salon Séance (サロン・セアンス) を共同創立。ミュージシャン、俳優、研究者、脚本家、舞台監督のコラボレーションであるサロン・セアンスは、タリシオのヤングアーティストグラントやプリテン・ピアズ財団のプリテン賞など、複数の賞を受賞している。観客との関わりに対する Mari Lee の取り組みは、従来のコンサート会場やコミュニティを超えた音楽活動といえる。カーネギーホールのフェローシップの期間中には、受刑者、ホームレス、発達障害のある人々、またニューヨークの貧困地区の公立学校で学ぶ子供達のためのインタラクティブなパフォーマンスを数々企画してきた。Mari Lee の過去のシーズンのハイライトには、クリプトセッションとイエローバーンでの Salon Séance のパフォーマンス、BodyVox のダンサーとのコラボレーション、CreArt でのマルチメディアコンサート、カーネギーホールでの照明と演劇を取り入れたシェーンベルクの「月に憑かれたピエロ」などを含む。使用楽器は、1863 年製 Jean-Baptiste Villaume。



Mari Lee

Music

音楽家

Music Advisor, Pianist

Berlin ●

菫田 奈緒子

ピアニスト。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。同大学卒業演奏会に出演。同研究科を経て、渡独。ベルリン芸術大学を卒業。渡辺ようこ、勝部裕子、奥村洋子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、江澤聖子の各氏にピアノを、小澤英世、マルクス・ニコシュ、タベア・ツインマーマン、ナターリア・グートマンに室内楽を師事。在学中よりヨーロッパでの演奏活動を始め、2009 年ベルリン・フィルハーモニーにてベルリン交響楽団とベルリンデビュー。イタリア・アルジェント国際音楽コンクール、デリヤ・シュタインベルグ国際ピアノコンクール、スペイン・シュテファン・マリッツァ国際ピアノコンクール、ポーランド・バツェヴィチュ国際コンクールに入賞。現在講師として母校ベルリン芸術大学、ベルリン・ハンスアイスラー音楽大学、ワイマール音楽大学にて後進の指導にあたるほか、ミュンヘン国際音楽コンクール、チャイコフスキー国際音楽コンクール、クイーン・エリザベート国際コンクールをはじめとするさまざまな国際コンクールに参加する学生たちのピアノパートナーを務める。2013、2019 年ドイツ・マークノイキルヒェ国際音楽コンクール、2015、2018 年ポーランド・ルトスラフスキー国際コンクールおよび 2015、2019 年チャイコフスキー国際音楽コンクールにて最優秀伴奏賞を受賞。2021 年エネスク国際音楽コンクールにて最優秀ソナタ賞を受賞。近年はソロ活動の他に特にライフワークとしている室内楽演奏活動にも力をいれており、優れた室内楽パートナーとして石坂団十郎、イエンス=ペーター・マインツ、コリア・ブラッハー、アンドレイ・イオニーツァなどと共演。デュオパートナーとしてヨーロッパ各地の音楽祭に出演のほか、ロシア・マリンスキー劇場やロンドン・ウィグモアホール、ニューヨーク・カーネギーホールにてリサイタルに出演。またドイツ・RBB、WDR、BR ラジオ、ZDF テレビ、イギリス BBC ラジオ、ラジオルーマニア及び NHK-FM リサイタル等でも演奏が取り上げられる。現在ヨーロッパを拠点にして世界各地で演奏活動を行っている。ベルリン在住。



Naoko Sonoda

朗読家

Speech Coach

葉月のりこ

Noriko Hazuki ●

Tokyo

Produced and Presented by Alacrity

©Alacrity Inc.